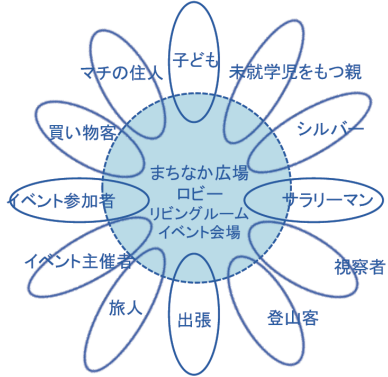


が落ちるとの結果が出ています。歩行速度が落ちること
で視野が拡がり、色々なことが見えるようになります。
この「気付き」が経済活動にもつながりますし、何より
コミュニケーションの機会も増えます。歩きやすい環境
をどれだけ創り出せるかが都市の魅力を高めていくこと
になると思います。

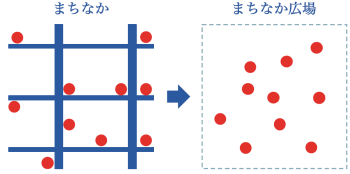
そして、この歩きやすさとセットで必要なのが公共交
通です。行きたくなる場所として広場があり、行く手段
として公共交通が近接していることが重要です。公共交
通機関があれば待ち合わせの場所にもなります。

～ 365枚の住民のハナが咲く ～



「まちなか」には、もともと多くのアクティビティが
ありますが、それが周りに見えていないことがほとんど
です。「広場化」すると色々な人が色々なことをしてい
るのが見えてきます。お互いに見る・みられるというこ
とで、たくさんのことを生んでいくことになります。

そして、ここが「まちの真ん中」だという共通認識を
すると、その場所（広場）にアクティビティが集ま
ってきて、緩やかに横に繋がる機会を生み出して
いくと思っています。



まちなか広場の重要性をお話ししてきましたが、「ま
ちなか」「中心市街地」「地域」という言葉をどうとらえ
るかは重要だと思っています。人の居場所としてどんな
にきれいに整備しても、使っている人がいなければ「た
だの空っぽの場所」でしかありません。したがって、「ま
ちなか広場」はそこを使いたくなる状況を作っていくこ
とが大切になります。

金山について見てみますと、「金山駅」という集客装
置（公共交通）ともう一つの集客装置は何なのか、その
装置の間はどこであるかを計画当初から考えていくこ
とが重要です。

改めて「賑わい」という言葉について考えてみます。
建築家のヤン・ゲールは、「賑わい＝滞在人数 × 滞在時
間」と定義しています。富山は、とにかく人が少なかつ

たので滞在時間を延ばす努力をしましたが、金山は多くの
人がますので「滞在人数 × 滞在時間」の質も大事です。
質を上げるためには色々なものが「動かしやすい」とい
う状況が大切になると思います。

また、金山の人は、何を「地域の価値」と見るのか考
えなくてはけません。目の前のことか、将来のことか。
その公園や広場があることでどんな地域インパクトが生
まれるかも念頭に置くべきでしょう。富山の事業は地域
に大きなインパクトを与えてきました。

金山には色々な可能性があると思います。多くの鉄道
が乗り入れています。ただまちにとって、駅に下りた時
に見えてくる風景はとても大切です。印象が決まると
言って過言ではありません。動線計画についても考える
ことは必要でしょう。

また、暮らしている人が多いことも金山の特徴です。
暮らしている人にとって広場がどうあるべきかを議論す
る必要はあるでしょう。商業施設の業態も地元マッチ
しているでしょうが、もっとおしゃれな店を用意するこ
とは、住んでいる人にとっても必要なのではないかと思
います。

「まちなか広場は、全員が主体者に成れる場所。
そしてエンジンは、住民です。」
金山がこれからますます魅力的なまちになることを期
待しています。

<事務局MEMO>

今回の語る会は、「広場」の在り方、使い方について、
現場経験豊富な山下氏をお招きしてお話を伺いました。
これまでの語る会でも「公共空間（広場・道路・公園等）
の在り方」については意見交換してきましたが、いよいよ
名古屋から将来構想が示され、より具体的な検討を
進めていく必要があるのでは、ということで今回の開催
となりました。

今回のご講演では、「まちなか広場」の大切さを多面的
にご説明いただくとともに、その活用方法については本
当に多くのヒントをいただきました。是非とも金山のオー
プンスペース整備に反映していけるようにしていきたい
と思います。

また、机上の検討もそうですが、「そろそろ何かやろう
ぜっ!!」という声もいただいています。事務局でも平均
年齢高めメンバーが固い頭を突き合わせながら提案で
きるよう準備を進めていますので、その節はご協力を切
にお願いします<(_ _)>

さらに、今回のご講演の中心舞台である「グランドブ
ラザを見に行こう!!」とのご要望もいただいています。
第2木曜日限定(!?) だそうですが、こちらも第2回目の
視察旅行を実現すべく企画してまいります! 決まりまし
たら改めてご案内しますので、是非ご参加を!!!

時に「広場をどのような場所にしたいか」をしっかりと掲
げておこうと決めました。

そして、まちにとって広場とは、「にぎわいの核」「街
歩きの拠点」「街の情報発信基地」となるようにしてい
こうと、現在も運営を続けています。

「うれしいヒトと出会う場所。」

楽しいコトと出会う場所。」

このキャッチコピーも自分たちで考えました。業者に投
げずスタッフや関係者 6 人ぐらいで 4 時間以上かけて
じっくり話し合えたことは、その後運営していく上で非
常に重要だったと思っています。

なぜかと言いますと、広場は土日祝についてはほぼ
100%イベント利用されていて、平日を入れても利用率
が 7 割以上あります。このような状況ですと開業してか
ら日々判断の連続で、スタッフは様々な問い合わせや要
望に個別に応えなくてはけません。ただ、スタッフ間で
「どういう場所にしたいか」を十分に共有していたの
で判断基準は統一できていたと思います。

そして、グランドブラザの稼働率の高さは、使い易い
広場として整備されているというのも理由の一つです
が、一番大きなポイントは、独自の条例を作っているこ
ろにあると思います。ご存知のとおり、道路、公園に
も法律があり、意外に禁止事項が沢山あるのです。規制
が沢山ある中では自由に使えません。

それに対してグランドブラザは、道路でも公園でもな
く、オリジナルの『富山市まちなか賑わい広場条例』と
いう条例に基づき運営されていて、この条例は、ほとん
ど禁止事項が無く、だからこそ都市の自由空間として
様々な使い方ができるのです。また、許可色を色々など
ころに經由せずに、グランドブラザ事務所だけのワン
ストップサービスで使えるようにしています。

また、どなたでも利用料を支払えば気軽にご利用いた
だけます。曜日や時間などによって料金は変わりますが、
一番安いのは、例えば移動販売車等の利用で 1,200 円か
ら利用が可能です。高くても休日の終日全面使用で 20 万
円です。1400 m²の空間を 20 万円で貸し切れるのです
から一個人でも貸し切ってイベントをしたくなるような
場所になっています。(現に毎年主婦の方が趣味の手芸
イベントを開催し、全国から人を集めています。)

通常はテーブル・イスが 100 席ほどおいてあります
ので、多くの人がかつろぎ、豊かな時間が流れています。
「人がいると団子屋さんができる。」と言いますか、平日
でも多くの人が座っているのでストリートパフォーマンス
や化粧品サンプル配布などささやかなイベントが集
まってくるようになります。

「賑わいを創出す」と言われていますが、そのため
に一般的に行われてきたのがイベントの開催です。しか
し、これは一過性で継続した賑わい創出とはなかなか

りません。いろんな人が色々なことをしたくなるような
場所をつくるのが、継続的な賑わいを生み出すことに
繋がっていくのではないかと思います。

結果として、グランドブラザでは大きなイベントから
小さなものまで積み重なり、使用料収入目標も 1300 万
円に設定していますが毎年クリアしています。今年は
1600 万円ほどの見込みだそうです。運営費は 4000 万
円ほどかかっていますが、1/3 以上を使用料収入で賄う
ことができているのです。

★賑わいを創る

グランドブラザでは、「何かをしたい人と共にある。」
ということを大切にし、最初は団体名にもこだわしまし
た。場所を「管理する」のではなく、「運営する」とい
うことで「グランドブラザ等の運営事務所」としました。
開業当時の総曲輪地区は、結構沈んだ状況で殆ど人が
いませんでした。まちの中心にも関わらずジャージにサ
ンダルという格好で歩いている、という状況です。そこ
で「ハレの場」として、おしゃれて出かけたくなるよ
うなエリアづくりを心掛けてきました。

広場の予約は全日の貸切利用で 1 年前からできます。
随分長い準備期間があるのですが、1 年先のことを考え
てワクワクしたり、その間、何度となくここを訪れる機
会が増え、今までなかった人や街とのつながりも増えま
す。そこから生まれる気持ちの膨らみがこの広場から周
りに波及していったように思います。

あと、開業当時からテーブルとイスは出しっぱなしに
していますが、最初のうちは富山の人はなかなか座って
くれませんでした。そこでスタッフが率先して座ったり、
積木スペースで遊んでみたりと人のいる光景を作しまし
た。「人が人を呼ぶ」というのでしょうか、今では平日
の昼間でも満席状態ということも珍しくありません。

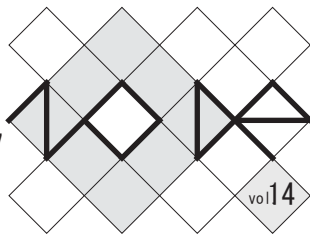
「いつも、楽しいな 場所」

集客力のあるイベントの会場として活用（使用料＝運営費） →
中心市街地らしく、「人の居る光景」が定着 →
人が人に惹き寄せられ、来街機会up! 来街者up! 来店者up! ▶



また、平日にも賑わいの景色をつくるために、富山県
内の小学校・幼稚園・保育園の施設ごとに「グランドブ
ラザに遊びに来ませんか」という呼びかけをしました。
まちなかの記憶と愛着を育むという取り組みです。
本日お集まりの皆さんもそうだと思いますが、まちを

4/7 fri. 2017



kanayama
machidukuri
kawaraban

金山地区のまちづくりを語る会が、
金山のまちづくりに関わる皆さんにとつての
「交流や情報の結節点」でありたい。
次々と新たな活動が生まれるような、
「創造力の結節点」といえる場でありたい。
そんな願いを込めて、本誌の名前を
『NODE 【結節】』としました。

「富山市まちなか賑わい広場」（グランドブラザ）は、2007 年富山市の中心市街地に
できたガラス屋根のかかった広場空間です。まちなかに賑わいを創出した成功事例と
して全国から注目を集めています。第 12 回の金山のまちづくりを語る会では、この広
場の立ち上げから運営まで現場で中心的に関わられた山下裕子氏にお話を伺いました。

「まちなか広場の作り方・使い方 ～新しいソーシャルキャピタルが街を豊かにする～」
山下 裕子氏（広場ニスト、人・ネットワーククリエイター）



富山での 7 年間の現場経験を生かして、今、広場を開
業するときに全国から呼んでいたいただいています。「広場
がまちにできるとこんなに豊かな日常が生まれます。」
という事例を紹介したいと思います。



まちなか広場の作り方・使い方
～新しいソーシャルキャピタルが街を豊かにする～



富山は車のまちとして有名です。人口当たりの車保有
台数としては全国 1 位 2 位を富山と福井で争っている
のです。こんな車社会のまちである富山市の中心市街地
の超一等地に車の入らない人の居場所を整備したのが
「まちなか賑わい広場」（グランドブラザ）という事業で
す。

グランドブラザができた経緯を紹介すると、非常に
多くの商店があった総曲輪（そうがわ）というエリアに
百貨店と駐車場を建設するという再開発事業で整備され
ています。

そして、広場は、もともと百貨店のバックヤードとす
る計画でしたが、「まちの中心地をバックヤードとして
使うのはもったいない。」ということで、市民のための
広場として整備されました。

今年で 10 年を迎えるこの広場は、駐車場と百貨店の
間にありますが、ウィークデイの百貨店開業前の時間帯、
それも何のイベントもしていない時にも関わらず、30
～ 40 人ほどの人が集う状況を作り出しています。

★グランドブラザの賑わい

グランドブラザの賑わいについてまとめてみようと思
います。

広場自体に集客力はありませんので、まちを広場化す
れば賑やかになるわけではなく、「人の通りかかる場所」
をいかにして「人の居場所」にするかが重要です。

このグランドブラザは、百貨店と駐車場の間にあると
説明しましたが、これが仮に「駐車場」「百貨店」「広場」
の並びだったらどうでしょうか。「広場」が百貨店の奥
座敷のようになってしまっって人の流れが生まれず、この
ように賑わいの成功事例として私が全国で講演させてい
ただくこともなかったと思います。車社会のまちで車に
乗ってきた人が駐車場に車を止め、目的地の百貨店へ行
く時に誰もか通りかかる場所を広場化しているのが一番
の特徴です。

また、富山は雨や雪が多い地域で年間 100 日も晴れ
ないと言われていますので、イベント開催を想定し屋根
をかけました。それによって悪天候が原因でイベントが
取りやめになったことは無いと聞いています。

そして公共交通である L R T (次世代型路面電車シ
ステム)「セントラム」の駅を目の前に設置し、広場にす
ぐ来られるような環境を作っています。(セントラムの
「グランドブラザ前」駅から 10 歩ほどで来られます。)

また、開業当時には、広場を整備して運営スタッフを
雇用しているところはほとんどありませんでしたので、
我々も手探り状態での運営になりました。ただし、その

グランドブラザは、今は集客力のある場所として認識
されていますが、当初から「NO」と言わない運営を心
掛けてきました。多くの申し込みがありますから、時に
重なってしまうこともあります。NO」と言わない
ために工夫を凝らしています。富山大学から大学祭の
P R のための相談がありました。その日は全面貸切予
約が入っていました。しかし歩行は自由です。そこで写
真のような格好で通り過ぎるというパフォーマンスを提
案しました。他のイベントで集まっていた人々に大きな
インパクトがあったことは言うまでもありません。

また、ここで育ったイベントが、ここで予約が取れな
かったために隣の商店街に移っていくという現象も生ま
れています。賑わいが周りにしみだしているのです。



空間の使い方は、無限大！

それを、可能にするために
NOは、ナシ！

★「まちなか広場」成功の秘訣！？

まとめのような話になりますが、前にも述べたとおり
「まちなか広場」には子どもの居場所をつくることが大
変重要だと思います。子どもが居られる場所は万人の居
場所になるためです。

そのためには、「安全であること」「居ても良い場所
だと認識できること。」「楽しげであること。」「美しくあ
ること。」「また、人は人に寄ってきますので「見通しの
良いこと。」が大切だと思います。

子ども達が遊びに来て色々な遊びをしたり、色々な人
が色々なことをしていたりと、毎日違う光景が生み出さ
れ、その変化を「楽しい」と認識してもらえます。その
ように変化しやすい場所であること、変化を生みや
すい環境を整えることが大切だと思います。

そして、人が居たくなる場所にするためには、テー
ブルとイスも重要なアイテムです。荷物の整理やメール
チェックなど、ちょっとした用事をする事ができる場
所がまちなかにないのが現状です。そのような時に使い
たくなるような場所を作る、居場所として広場があるこ
とが大切になると思います。

また、歩きやすい場所にすることも大切です。グラン
ドブラザでは、地元大学の研究で、広場内では歩行速度